

1 教育事業名 平成25年度 復興食イベント・フード&アクティブキャンプ
「沖縄マリンプルーアクティブキャンプ」

2 ね ら い 福島県に住む児童を沖縄・渡嘉敷島に招き、無人島という大自然の元で様々な体験活動を行うことで心身の健康を整えリフレッシュを図りたい。また、同時に沖縄に住む児童生徒との交流を組み込み、その過程で友情を育みながら、沖縄や渡嘉敷島の食や文化や震災の状況についても理解を深める内容とする。

3 期 日 平成25年8月7日（水）～11日（日）4泊5日

4 場 所 国立沖縄青少年交流の家および儀志布島

5 募集定員 20名

6 参加人数 17名

7 参加者内訳 小学生5・6年生15名、中学生2名
(福島県参加者9名、沖縄県参加者8名)

8 講師 ・照屋寛信氏 ・岩本慶吉氏 ・高校生スタッフ3名

9 実施プログラム

	1日目 8月7日	2日目 8月8日	3日目 8月9日	4日目 8月10日	5日目 8月11日
主な 内容	福島発 沖縄食夕食会 交流の家 宿泊	無人島生活 家造り かまど作り スノーケリング 星空観察	無人島生活 つり 火おこし 炊飯 ふれあい夕食	かたづけ マリンスポーツ 沖縄食昼食 沖縄食夕食会 交流の家 宿泊	報告会 お別れ会 沖縄発 福島着

10 事業の様子

【無人島での生活】



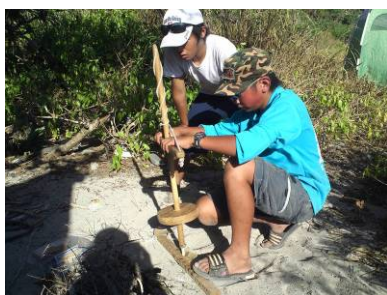
家はブルーシートを工夫してつくります



自分達で釣った魚をさばきました



仲間と協力して野外炊事



粘り強く火おこし中



マリンプルーの海でスノーケリング



大自然の中での3日間



素敵な仲間ができました



沖縄の食体験「タコライス」



福島の子より「震災について」

11 参加者の声

<参加児童>

- ・ 無人島で過ごした3日間は不便だったけれど、仲間がいたし、普段できないことができたのでとても楽しかった。
- ・ 無人島の体験をして、今の電気やテレビ、クーラー、調理されて出てくる魚、お風呂、ふとん、ガスがある暮らしは、楽で恵まれていると思った。こういう暮らしができることにありがとう。
- ・ 無人島の星空を見たとき、町とはまるでくらべ物にはならないなあと思った。はっきりとさそり座や北斗七星も見れました。天の川もしっかり見れ、流れ星があんなに流れているのは、初めて見た。

<保護者>

- ・ 沖縄という素敵な場所でも無人島まで行きスノーケリングや釣り、かまどづくり、どれも子どもにとっては初体験のことばかりでした。海が綺麗だったこと、サンゴの砂浜、タコライスの美味しかった事、色々話してくれた。
- ・ 電気もガスもない無人島での生活は彼にとって初めてのことばかりで普段何気なく使っているものがどれだけありがたいものであるか、他の人と協力しなければ何も進まないことが、身にしみて理解したようでした。
- ・ 綺麗な海と、海中の(福島の海にはない)あざやかな魚のこと、火おこしに30分かかったこと、満天の星の下で新しい友達と語り合ったこと etc...あれから2週間がたとうとしているのに今だに生き生きと話してくれます。一生の良い経験になりました。

12 担当者所見

【成果】

無人島という大自然の中で自分達で家を作り、食べ物をとって生活するという自然体験活動を生き生きと自主的に行うことで、福島児童の心身の健康を整えながらリフレッシュを図るという目的は十分に達成できたと考える。また、沖縄に住む児童生徒にも無人島生活体験は「生きる力」を身につけることができたと考える。また、協力して生活していく中で両県の児童は自然と交流し、友情を育むことができた。

さらに、「沖縄や渡嘉敷島の食や文化」、「福島の震災の状況」についても、実際に食べたり、お互いに実体験を語り合うことで理解を深めることができたと思われる。

【課題】

福島から沖縄へは移動に時間がかかるため、実際の無人島生活を堪能するには十分な滞在期間ではなかった。次年度はさらに無人島での時間が取れるよう工夫したい。